

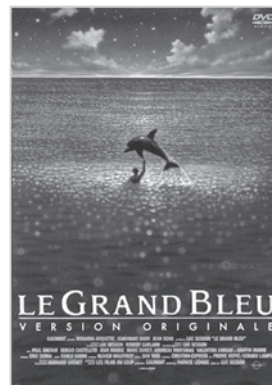
『グラン・ブルー』

1988年／フランス・イタリア／リュック・ベッソン監督作品

思い出の海

会員 酒井 昌弘 (69期)

『グラン・ブルー オリジナル版
—デジタル・レストア・バージョン—
価格 DVD ¥1,980 (税込)
発売・販売元 KADOKAWA



1 本作品との出会い

私はまだサラリーマンだった頃、職場近くに、一軒のダイビングショップがございました。当時、私は仕事で悩み、もがき苦しんでおり、現実逃避として「海に潜る」ことに憧れて、同ショップを訪ね、以後、各地の海を趣味で潜ることとなりました。

本作品は同ショップで仲良くなった店員さんの薦めで知りました。私の趣味「スキューバダイビング」と本作品のテーマである「(体一つで海に潜る)フリーダイビング」は、全くの別物なのですが、「海に潜る」という部分だけは同じでしたから、店員さんも「海を好きになって欲しい」という趣旨で、本作品を私に薦めてくれたのでしょう。

本作品は、色々な意味で、私にとり「心に残る映画」となりました。初見の際の感動を未だ忘れることができませぬ。ストーリーは単純ですが、その斬新な映像美と映画音楽の素晴らしさは、秀逸だと思います。そして「心に残る映画」には、初見の頃の淡い「思い出」もついて回るものです。

2 本作品のあらまし

イタリアの著名フリーダイバーであるエンゾは、ギリシアで育ち、子どもの頃から素潜りが得意でしたが、そんな彼が唯一(潜りの)実力を認めていたのが、幼馴染で潜水士の息子だったフランス人ジャックでした。長じて世界的ダイバーとなったエンゾは、ある日、海難救助の助力をして大金を手に入れると、彼が唯一のライバルと目するジャックを探し出し、フリーダイビング競技会に呼ぼうとします。当のジャックはその頃、ペルーのアンデス山中で運動生理学者の研究対象を務めていました。氷結した湖の氷の下を、機材も付けず長時間潜水し研究データを提供するという「世捨て人」の様な生活をしていたジャックでしたが、エンゾからの競技会参加の要請を、懐かしさもあって、受けることにします。

ジャックとエンゾは、まずシチリア島タオルミナで開催された競技会で対決します。地中海や、二人が出会うホテル(San Domenico Palace*1及びCapo Taormina)の映像美(建築美)が見事です。映画では、狂言回しとしてニューヨーク在住の保険調査員の女性(ジョアンナ)も登場します。その後も、ジャックとエンゾは各地を転戦し、旧交を温めつつ競い合います。そしてラストでは、ジャックは、エンゾとの死闘の末、恋仲となったジョアンナを振り切り、再び世を捨てることを示唆し、物語は終わります。

3 リュック・ベッソン監督について

公開当初は散々な評価と興行成績だったそうですが、その後、何故かカルト的人気を博した結果、リュック・ベッソンの出世作となったそうです。リュック・ベッソンのハリウッド進出作「Leon」(1994)では、エンゾ役のジャン・レノが主演を務め、良い味を出しています。リュック・ベッソンというと、(Nikita, TAXIシリーズ, Transporter等)バイオレンスが売りとのイメージもございりますが、本作品では、その趣は全く見られません。

4 ジャック・マイヨール氏(本作品主人公「ジャック」のモデル)について

本作品はフィクションですが、主人公ジャックは実在のフリーダイバー、ジャック・マイヨール氏をモデルとしています。ジャック・マイヨール氏は、人類史上初めて、素潜りにて100mを超える潜水記録を出した伝説のダイバーです。また大変な親日家でもおられまして、超古代文明の遺跡とも囁かれる「与那国島海底地形*2」を世界中に紹介した人物としても知られています。ただ晩年は心を病み、残念ながら、2001年12月22日にエルバ島の御自宅にて縊死されました。御冥福をお祈り致します。

*1: San Domenico Palaceは、第二次大戦中ドイツ軍シチリア方面軍司令部が置かれたともされる素晴らしいホテルです。生涯に一度は、宿泊されることをお薦め致します。

*2: 勿論、海底遺跡説には批判も多いのですが、筆者には「この地形」が自然現象だけで出来たようには、全く見えませんでした。